

既存集団に加わる新入成員に対する 内集団ひいきの発生と集団同一性の影響

—社会的アイデンティティ理論の観点から—

○山本愛華・稲月聡子

(岡山大学大学院社会文化科学研究科)

目的

大学生の不適応について、日本学生支援機構(2007)は、学生間のネットワーク不足が不適応を助長することが多いため、友だちづくりの機会や学生の居場所の提供等の方策をとることが重要であると述べている。しかしながら、新たな集団で人間関係を構築することは必ずしも容易ではない。

本研究では内集団ひいきの概念を使用する。内集団ひいきとは、Tajfel, Billig, Bundy, & Flament (1971)によって観察された、内集団の成員をひいきし外集団の成員を差別する現象のことである。そして、集団同一性(group identification)が高い状態とは、集団成員としての自己の同一性(アイデンティティ)を強く意識し、集団への評価と自己評価とが密接な状態である。集団同一性高群において内集団ひいきの発生が顕著であることが示されている(Branscombe et al. 1993; 大石, 2002)。

本研究に期待されるものは、まず、新入成員が内集団ひいきの対象になるか否か明らかにすることである。新入成員とは既存の集団に新たに参入しようとする人のことである。次に、集団同一性と新入成員の受容の関連を検討することである。

方法

参加者 岡山大学の学生 109 名(男性 34 名, 女性 72 名, その他 3 名, 平均年齢 20.06 歳)の回答を使用した。

倫理的配慮および利益相反 研究参加者に対して、研究目的、調査への協力は自由意思であること、データは研究のみに使用することなどを説明した。本研究に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

手続き 質問紙を用いた場面想定法を実施した。まず、実験参加者の所属集団である岡山大学について、集団同一視尺度日本語版 7 項目(Karasawa, 1991)に回答を求め、次に、同大学に

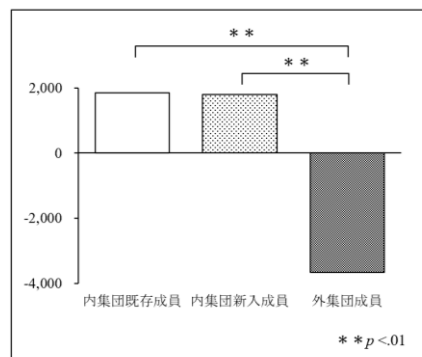
編入生が加わる場面を想定してもらうよう教示した。続いて、予備調査によりライバル大学として決定した広島大学学生を外集団とすることを教示した。そして、先行研究(原島・小口, 2007; 藤井, 2014)と同様の場面である奨学金、アルバイト代のそれぞれの場面について、10 万円を既存の岡山大学学生(内集団既存成員)、岡山大学の編入生(内集団新入成員)、ライバル大学学生(外集団成員)に分配する課題に回答してもらった。

結果と考察

内集団既存成員と内集団新入成員はともに、外集団成員よりも有意にひいき得点が高く、内集団新入成員は、既存成員にとって内集団ひいきの対象となることが明らかになった(Figure 1)。

また、集団同一性と分配先の交互作用は確認されず、集団同一性の高低が新入成員への反応に与える影響を明らかにすることはできなかった。

Figure1 ひいき得点



本研究では、新入成員は内集団既存成員と同様にひいきされるという結果を得た。しかし実際には、既存の集団に参加するとき既存成員に排他的に扱われるのではないかと不安を抱く人は少なくないだろう。このような不安の要因が集団の中に存在しているか否かを検討することは今後の課題である。一方で、本研究結果は、多くの人が安心して既存集団に参加することに役立つと考える。特に大学新入生・編入生においては、様々なストレスに対処する日々のなかで、ストレスがひとつ減少することが大きな助けとなるだろう。本研究における臨床的意義が認められた点だと考える。